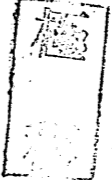


A9009-11-1-10-2



居秘第一〇二號

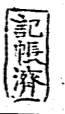
昭和十九年三月九日

外務省在敵國居留民關係事務室

鈴木 公 使

俘虜情報局長官 殿

「コウラ」俘虜收容所視察報告送付ノ件  
在「メルボルン」瑞西國領事館代表ノ本件收容所視察報告在瑞西  
阪本公使ヲ通シ接到セルニ付別紙ノ通邦譯ノ上送付ス



別紙添付

(日本標準規格 B5)

在「コウラ」俘虜收容所第十二號D視察報告書  
(一九四三年五月二十七日視察)

收容所名 在「ニュー・サウス・ウエールズ」州「コウラ」俘虜收容所第十二號D

收容所長 R・G・「ノリス」大尉

輔佐官兼補給係長 L・C・「マックカーシー」大尉

信任者兼管理人 山川テツヲ 第一〇〇、〇〇九番

右代理人 南 タダヲ 第一一〇、〇〇一番

收容能力 約五〇〇名

視察當日ニ於ケル收容人員 二六二名

伊國人 一三二名

計 三九四名

將 校	〇職員 作業部長 陸軍	一	一	一	一	計
	軍海	一	一	一	一	計
	軍空	一	一	一	一	計
	軍	一	一	一	一	計
	計	一	一	一	一	計

(日本標準規格 B5)

外務省

外務省

○船員 總計	兵 官	下士	將校	○衛生員 計	兵 計	下士 官
八				七	七	
				一	一	
	一	一	一	四	四	四
				九	二	
				一		一
				一		一
				六	一	一
一 六 一	一 一			一 八 〇	一 二 三	一 一 一

(11) 本標準規格 B5)

外務省

收容所設備

本收容所ハ依然危險區域外ニ在ルモノト認メラル  
 氣候ハ良好ニシテ刺戟的ナリ  
 構外ニ於テ勞働ニ從事シ居ル少數ノ俘虜モ亦危險區域外ニアリ  
 前回ノ報告書ニ於テ既報ノ如ク本收容所ハ主要路ノ中間ニ設ケラレ  
 タル有刺鐵條網ニ依リ簡單ニ二區ニ區分セラレ各部五〇〇名ヲ收容  
 シ得  
 將校ハ分離セラレ多數ノ小舎ヲ有スル特別ナル宿舍設ケラレ建物ノ  
 一ツニハ居室、食堂及貯藏庫ヲ有スル炊事場アリ、他ノ小舎ハ寢室  
 ニシテ各二名ヲ收容シ得  
 下士官ハ一室六名以上收容可能ナル一宿泊所ヲ有スル獨立小舎ニ就  
 寢シ居レリ  
 主要「コンバウンド」ニ在ル兵モ亦小舎ヲ有シ右ハ縦ニ設ケラレ居  
 ル仕切り壁ヲ有スル新型小舎ナリ

(12) 本標準規格 B5)

外務省

全小舎ノ壁ハ波狀鐵板ニシテ、屋根ハ「アスベストセメント」ナリ  
 兵士「コンバウンド」ニ附屬スル食事用小舎二個ノ中一ハ、診察希望  
 者ノ便宜上目下診療室ニ當テラレ居レリ  
 各小舎ノ採光及通風狀態充分ナリ食事用小舎、炊事物<sup>場</sup>及病院ハ電氣  
 照明ニシテ、將校收容屋舎モ全部同様電燈<sup>燈</sup>ヲ用フ、之ニ對シ兵ノ就  
 寢用小舎ハ依然石油「ランプ」使用中ナルモ現ニ電燈<sup>燈</sup>架設中ニテ數  
 週間後ニハ完成スヘシ  
 暖房設備ハ存在セサルモ、所長ハ食事用小舎用ノ「ストーヴ」ヲ發  
 注セルヲ以テ近ク給與セラルヘキ旨述ヘ居レリ  
 相當以前ヨリ收容セラレ居ル二名ノ將校ハ鐵製ノ野營「ベツト」及  
 敷蒲團ヲ有シ居ルモ、他ハ全テ床上ニ就寢シ居レリ全將校ハ敷蒲團  
 及「シーツ」二組ヲ有シ居リ、全員敷蒲團一枚及毛布五枚ヲ有シ居  
 レリ  
 其ノ後新ニ收容セラレタル將校連ハ「ベツト」及敷布團ヲ有ス

外務省

(日本標準規格B5)

信任者ハ差當リ英語ノ收容所規則集一部ヲ有シ居ルニ過キサルモ右  
 規則其ノ他ノ規則ハ目下日本語ニ翻譯セラレツツアリ追テ食事用小  
 舎ニ揭示セラルヘシ、右ニ關シテハ收容者ニ説明ノ爲特別ナル翻譯  
 者來所ノ筈

外務省

(日本標準規格B5)

所有物

全俘虜ハ其ノ制服ヲ沒收セラレ之ニ代ル被服ヲ交付セラレ居レリ、若干ノ俘虜ハ時計ヲ沒收セラレ之ニ對スル領收書ハ交付セラレ居ラサルモ、所長ハ其ノ大部分カ保管セラレ居リ、歸國前所有物ヲ返還スヘキ旨述ヘ居レリ  
一將校ハ銀行預金一〇〇磅ヲ沒收セラレ、之ニ對スル領收書交付セラレサル旨述ヘタリ

郵便通信

收容所官憲ハ故國宛通信ヲ懲憑シ居ルモ未タ發信セル俘虜ナシ  
書信及小包到着ナルコトナシ  
信任者ニ依レハ軍官憲及利益保護國代表ト交通セルコトナク收容所長ニ對スル接渉ハ口頭ニテ行ハル  
衛生員トシテ收容セラレ居ルモノ左ノ通  
軍醫 一名、衛生將校 一名、衛生員 十二名

(日本標準規格B5)

外務省

食糧

食糧問題ニ關シ將校、信任者及其ノ代理人ト詳細懇談セル處、食糧ハ質及量共全テノ點ニ於テ優秀ナリト認メラレタリ一週一〇〇人分ノ食糧目錄附録ノ通

醬油其ノ他ノ日本ノ特殊品供給セララルニ於テハ歡迎セラルヘシ  
「ペーキングパウダー」及酢等ハ食糧目錄ニハナキモ右ハ自費ニテ酒保又ハ外部ヨリ入手シ得

視察當日ニ於ケル獻立

朝食「ボリワジ」、「パン」、「バター」、「ジャム」及牛乳

晝食「米飯、野菜及肉

夕食「紅茶、米飯、野菜及肉

炊事施設ハ完全ニシテ、良好ナルモ收容者ハ日本式ノ米飯炊事用ノ特殊ナル釜一個給與方希望ナルヲ以テ收容所長ニ轉達セル處右ハ認許セラレ直ニ發注セラルル筈

(日本標準規格B5)

外務省

各俘虜ハ一週紙卷煙草三十五本文ハ同量ノ煙草ヲ給與セラルレ居レリ  
尙煙草ハ酒保ニ於テ求メ得ルモ多クノ俘虜ハ購買ノ資力ナシ  
如何ナル集團刑モ科セラルレタルコトナシ  
收容者ハ目下駐屯軍ノ酒保ヲ利用シ居レリ小遣錢欠乏ノ爲所内ニ酒  
保ナシ酒保ニテ擧ケララルル利益ハ小額ナル爲利用ノ餘地ナシ

(日本標準規格B5)

外務省

被服

上下衣及靴ノ給與狀態ハ満足スヘキモノニシテ右ニ關シ何等苦情ナシ  
將校ノ給與狀態モ兵ト同様ニシテ不足ナシ

衛生設備

衛生設備ハ整ヒ居リテ右ニ關スル苦情ナキモ收容者ハ「ハイ」收容  
所ニアルカ如キ日本式ノ「共用ベント」ノ供與方所長ニ取次アリ度  
旨要請シタルカ所長ハ之ヲ許諾シ必要ナル資材ノ調達ヲ約セリ  
多數ノ「マリア」患者アリテ病院ニ送ラレ居レリ、一般ニ收容者  
ノ健康狀態ハ不良ナリ收容者ハ不快乃至熱ヲ覺エタル際ハ直ニ申出  
ツヘキ旨ノ嚴達ヲ受ケ居レリ治療ハ約六〇名ノ患者ヲ收容シ得ル衛  
戎病院ニ於テ行ハレ居レリ  
軍醫ハ日々來診スル外必要ノ都度來所ス  
齒科治療ハ良好ナルモ現在迄大ナル必要ナシ  
眼科醫ハ約一ヶ月一回來診シ居レリ

(日本標準規格B5)

外務省

「キニーネ」入手困難ナルヲ以テ日本赤十字社ヨリ供與セラルルコトトナラハ歓迎セラルヘントノコトナリ  
輕病傷人ナリ  
死亡者ナシ

禮拜

基督教徒ナキ爲禮拜ノ要ナシ

給與

現在迄ノ所最初ニ收容セラレタル二名ノ將校カ月五磅三志八片ヲ給與セラレ居ルニ過キサルモ他ノ將校ニ對シテモ追テ給與セラルヘシ少數ノ收容者ハ出納係ニ預金勘定ヲ有シ居リ之ヲ使用シ得故國向送金ハ不可能ニシテ收容者ノ經濟狀態ヨリシテ行ハレ居ラス

勞働

收容所内ニ於テ勞働スル者ヲ除キテハ有償勞働ニハ頑強ナル身体ヲ必要トスルカ故ニ之カ可能ナル健康狀態ナル俘虜ハ極少數ナリ

外務省

(日本標準規格B5)

就働率ハ全員ノ僅ニ約八%ニ過キス俘虜ハ庭園、野外作業、伐木、薪割リ、穴堀リ及運河工事ニ從事シ居レリ  
一日八時間勞働ニ對スル勞銀左ノ通

熟練者

一志三片

助手

七・五片

熟練者工事監督

一志八片

未熟練者

十片

勞銀ヨリ何等差引カレ居ラス

禁止勞働ハ要求乃至施行セラレタルコトナシ

(日本標準規格B5)

外務省

苦情

信任者ノ言ニ依レハ苦情ハ訴ヘラレタルコトナキモ、日曜日以外ノ日本祭日ニ於ケル行事ノ行ハレサルヲ訴フルモノアリ右ハ所長ヨリ主務廳ニ轉達セルモノ未解決ナル趣ナリ  
收容所長ハ俘虜ノ協力ニ缺クル所アルモノ右ハ恐ラク言語ノ疎通ヲ缺クルニ起因スルモノニシテ、良キ通譯者ヲ得ルニ於テハ改良セラルヘシト述ヘ居レリ

運動及娛樂

將校連ハ運動具不充分ノ爲運動不足ナル旨述ヘ居ルモノ、大多數ノ將校ハ未タ收容セラレテヨリ二週間ニ過キサリニ因リ右ハ當然ナリ  
兵士ハ野球、籠球、「ヌットボール」及相撲等ヲ爲シ居レリ  
外出ハ爲サレ居ラス  
圖書ナシ從ツテ學習ヲ行ハレ居ラス、日英語教科書竝ニ日英語辭書ヲ入手シ得ルニ於テハ大ニ歡迎セラルヘク右ニ關シ收容者ハ基督教

(日本標準規格B5)

外務省

青年會ニ對シ斡旋方要請シタル趣ナルニ付本官ヨリ改メテ之ヲ赤十字國際委員會代表ニ懇請スヘキ旨勸告セリ  
收容者ハ「シドニー」發行新聞竝ニ寫眞週報ヲ閱讀ス  
映畫及「ラジオ」ノ設備ナシ

(日本標準規格B5)

外務省

規律

處罰ノ行ハレタルコト稀ナルモ一名ノ兵士ハ監視人ヨリ武器ヲ奪ハ  
ントシテ處罰セラレ、一名ノ將校ハ逃亡ヲ企圖セルニ因リ處罰セラ  
レタリ  
逃亡ヲ企圖セル將校ハ收容所ノ周圍ニ柵ニ及フ柵ニ到達スル前ニ捕  
ヘラレタリ

一日三回ノ點呼行ハレ又隨時呼名點呼行ハル  
日課左ノ如シ

六時四十五分	起床
七時二十五分	點呼
七時三十分	朝食
十二時	點呼
十二時十五分	晝食
十七時	點呼

(日本標準規格B5)

外務省

十七時十五分	夕食
二十二時十五分	消燈

雜

委任狀ノ署名ハ全テ行ハレ居レリ  
一般狀況

俘虜ノ大多數ハ未ダ收容所生活ニ慣レ居ラス、右ハ言語ノ疎通ヲ缺  
クコトニ基クモノナルヘク命令カ俘虜ニ不快ナル場合之ヲ解セサリ  
シトノ口實ヲ設クルコト多シ、故ニ一定時ニ同時ニ食事スルコト困  
難ニシテ、日々ノ檢閲時ニ於ケル小舎ノ狀態等モ之ニ類スルモノア  
リ  
斯カル困難ハ漸時改善セラレ、收容者モ規律ニ慣レツツアリ  
俘虜ハ其ノ待遇ニ満足シ居レリ  
健康狀態ハ良好ニシテ、全員體重ヲ増シ居リ手輕テル仕事ヲ爲スコ  
ト可能ナリ

(日本標準規格B5)

外務省



食品名	週一〇〇人分ノ食糧目録		單位英封度	
	日	曜日	曜日	曜日
牛 肉		五〇		五〇
羊 肉				
豚 肉				
鮮 魚	一〇〇		一〇〇	
「バ ン」	四〇〇		四〇〇	
「バ タ ー」	四〇〇		四〇〇	
「ビ ス タ ー」				
「チ ー ズ」				
「コ ー ヒ ー」				
「カ レ ー」				
小 麥 粉				
乾 燥 果 實				
合 計	四〇〇	五〇	四〇〇	五〇

(H 本標準規格 B5)

外 務 省

一九四三年六月十二日

在「メルボルン」瓊西國領事 署 名

視察者「イー、ブラック」記

(H 本標準規格 B5)

外 務 省

外  
務  
省

生 根	球 野	野 菜	菜 菜
1	3	1	3
8	2	0	2
0	2	0	0
0	2	0	0
1	2	1	2
8	2	1	2
2	2	2	2
2	2	1	2
0	1	1	0
0	0	0	0

日本標準規格B6)

外  
務  
省

玉	馬	鈴	度	牛乳又ハニ「オン	ス「入箱及六封	「クリー	度	「ト	「ト	「ト	紅	砂	鹽	米	胡	「
七	三	五	〇	三	二	五	二	五	一	〇	五	〇	五	〇	〇	三
七	三	五	〇	三	二	五	二	五	一	〇	五	〇	五	〇	〇	三
七	三	五	〇	三	二	五	二	五	一	〇	五	〇	五	〇	〇	三
七	三	五	〇	三	二	五	二	五	一	〇	五	〇	五	〇	〇	三
七	三	五	〇	三	二	五	二	五	一	〇	五	〇	五	〇	〇	三
七	三	五	〇	三	二	五	二	五	一	〇	五	〇	五	〇	〇	三
七	三	五	〇	三	二	五	二	五	一	〇	五	〇	五	〇	〇	三
七	三	五	〇	三	二	五	二	五	一	〇	五	〇	五	〇	〇	三
七	三	五	〇	三	二	五	二	五	一	〇	五	〇	五	〇	〇	三
七	三	五	〇	三	二	五	二	五	一	〇	五	〇	五	〇	〇	三
九	二	一	〇	二	一	〇	一	〇	一	〇	〇	〇	〇	〇	〇	一

日本標準規格B6)



REEL No. A-1112

14

在歐居留民關係事務

昭和拾九年七月卅壹日接受  
附屬書添附

普通第六二號

昭和十九年四月五日

在瑞西

特命全權公使 阪本瑞男



外務大臣 重光葵 殿

敬一

コウラレ第十二D 係屬收容所ノ件

本件ニ関シ在「エドニー」瑞西總領事館代表ノ作成ニ係  
ル視察報告書別添一部送付スル事查收相成度シ

めん かん

在「コウラ」俘虜收容所「オ十二号D」視察報告書

(一九四四年一月六日視察)

收容所名 在「ニー・サウス・ウエスト」州「コウラ」俘虜收容所

「オ十二号D」

收容所長 E・D・リース大尉

輔佐官兼補給係長 ホレスト少尉

「オ一」コムバウンド

信任者兼管理人 丁・南「オ二〇、〇〇一」番

右代理人 丁・山川「オ二〇、〇〇九」番

外務省

收容能力 約五〇〇名

視察当日に於ける收容人員 三五九名

戦闘員		衛生員	
		陸軍	

下士官	六八名	二名	
-----	-----	----	--

兵	二七六名	一三名	
---	------	-----	--

計	三四四名	一五名	総計 三五九名
---	------	-----	---------

右記信任者 管理人ハ視察者ニ戦闘員配分精確ナル教ヲ告知シ

得「オ十二号D」

外務省

3

オニコムパウンド		
信任者兼管理人 アハン・シヤン・シヤセ <u>オ一四五、三四〇番</u>		
右代理人 リコ・ジエン <u>オ一四、五、六番</u>		
收容能力 約五〇〇名		
視察当日ニ於ケル收容人員 九七名		
作業部隊	朝鮮人	支那人
	八七名	一〇名
		九七名
統計		
オニコムパウンド		

外務省

オニコムパウンド			
信任者兼管理人 ツクハラ・スエキ <u>オ一四五、五四五番</u>			
收容能力 約二六名			
視察当日ニ於ケル收容人員 一四名			
戦闘員	陸軍	海軍	空軍
	五名	一名	二名
衛生員			
士官(醫師)	五名		
船員			
士官	一名		
			八名
統計			
			一四名

外務省

收容所設備

コシバラントノ一般設備前視察以來何等も変化ナシ  
 庫ニ居ル也。

オシバシトハ其ノモリ三箇モハ依然オシバシトニ分割ナシ  
 庫ニ在リコシバシトハ簡單ナシ有刺鉄線ノ垣ヲ以テ隔離  
 セリ居ル也。

收容者ハ如何ナル觀察ヨリモ收容所ノ庭園擴張ナシニ  
 際キ彼等ノ收容所ノ更ニ改善セリトハ必要ヲ認め  
 居ラス。

外務省

收容所視察者ハ收容者ハ上記ノ事ニ関シ餘リモ興氣ナシ  
 ナリ又彼等ノ環境ノ改善ハ更ニ認めザル等ノ印象ナリ斯  
 所ニ去リ。

朝ノ五時直後ニ於テ視察者ハ大々々ノ小座等ハ良好ナル  
 秩序及清潔ヲ備ヘ居ルニ見ユ。

本ノ友ニ視察者ハ午後ニ於テ此ノ清潔ナシ如何ナル觀察  
 ナルモ大座長ノ小座等ニ居ルナリナシノ經驗モ、又特ニ日本人兵士  
 ノ小舎ハ午後ニ於テ其秩序及問題ナシトハ本品行ノ良ナリ  
 事ハ小座長相ヲ見ユ。

外務省



各衛戍將校ハ視察者ニ對シ日本人兵士ノ小舎ニ於テ秩序  
 本清潔ヲ保シヨリハ兼テ木圍難ヲ免ルルニ報告ヲ呈ス  
 依等小此ノ東キ園ニ作業部隊ノ朝鮮人ハ著シク清潔  
 ナルニ日中表明セリ  
 隔離セル小舎ニ收容セラレ申余軍高級等ノ木キニ任事  
 自身執行ニ居ル日本人將校連ハ本軍及軍ノ良好ナル秩序及  
 清潔ヲ保シヨリ  
 全 俘虜ハ住居小舎ニ收容セラレ兵士及下士官ハ新式ノ  
 獨立小舎ニ於テ住居スルニ收容セラレ居リ  
 外務省

予ニ改テ將校ハ一室ニ收容セラレ右室ハ予名録ヲ封じ  
 標準的室向テ示シ居リ  
 \* 然レモ今日南將校ノ人員ハ比較的小數ナルヲ以テ將校連ハ  
 殆ド例外無ク一人一室ニ住居スルコト可能ナリ  
 兵士及下士官用ノ兩小舎ノ各々ニハ新理場又及食堂ニ架  
 有セリ通常右小舎ニ於テ食室ハ本軍ノ目的ニ使用セリ  
 他ノ小舎ニ於テハ舞臺ニ利用セリ又ハ店內ニ於テ仍舊力ヲ利用  
 外務省

附屬セル小舎一ツ有セリ  
 唐門ニハゴブノ一ツ設備有リ右部屋ハ又書齋等ニ使用  
 此大ナル兩小舎ノ床ハ谷ノ方南井地上ヨリ高ク構下リ居ル  
 徐チ特校ハ此ノ小舎ノ下ヲ露台トシテ利用セリ  
 布寮台ハ夏者チ新チ非常ニ冷涼ナリ  
 彼等小此處ニ寝椅子ヲ置キ又小車ニ於テ勉強シ居レリ又  
 今工照明ハミツムポイントヲ林舎内ノ街路及廣場ニ在リテハ  
 電氣燈ヲナリキ

外務省

人工照明及晝間照明ハ今夏ニ依リ完全ニ満足スベキモノト  
 表明セシ居レリ  
 兵士ハ常ニ床上ニ就ル寝シ居ル此ノ兵ニ因テ如何ナル苦情  
 又モ連年ナシ居ル俸給ノ少クハ自ラ他業ニ於テ製作シ  
 居レリ(將校ハ例外ナリ)寝台、褥敷布及敷蒲團ヲ有セリ  
 朝鮮人ノ小舎ハミツムポイントニ在リ  
 二層ニ分テ居レリ  
 日本ノ小舎就中將校ニミツムポイントノ新クヤ新持シ居ラス  
 用件小牧新長ニ提出セラルトシテ用件ニ有基キ付居レリキガ

外務省



要亦カト直方テ物案ナシトテ、ハ集團長ニ依リ採用セラルル

係屬ノ所有物

前報報告セシ如ク、係屬選ハ其ノ收容ノ際、一切モ↓ヲ没收セ

テ、時計、紙、入レ等ニ対シテ、スラ領收者ヲ交付セラレ居ラ

ル。

係屬選ハ他等キトシ、高價賣却ナルモノ、本報リハ紛未セル旨ヲ報

告シ居ル。又收容所觀察者ニ對シ、級等ノ所有物ヲ

返却ニ得ルヤ否ヲ計算中セリ。

從テ、收容所觀察者ハ信任者ニ對シ、收容者名人ニ傳

外務省

彼等ノ没收物、物品ヲ陳述セシメ、ハ要トシ、頼リ收容

所長ニ傳達スル機幹様セリ。

右願ノ窮及ハ、俄々各人ニ依リ保存セシメ、本件ニ関シ、軍

事情カ、何等生半クセザリシ場合、在リトシ、瑞西總領事館ニ

對シ、取扱方ニ關シ、傳達スル事ナリ。

通信

一切係屬ハ、依然トシキ如ク、形又ハ、小方法ヲ施テ、之依等

親族ニ對シ、係屬タルノ身分ヲ報告スル事ナク、拒絶シ

居レリ。

外務省

係屬ノ所有物

前報報告セシ如ク、係屬選ハ其ノ收容ノ際、一切モ↓ヲ没收セ

テ、時計、紙、入レ等ニ対シテ、スラ領收者ヲ交付セラレ居ラ

ル。

係屬選ハ他等キトシ、高價賣却ナルモノ、本報リハ紛未セル旨ヲ報

告シ居ル。又收容所觀察者ニ對シ、級等ノ所有物ヲ

外務省

同様、理由力有るに、彼等ハ彼等ハ、  
 団体力有るに、  
 書簡ハ今日迄依然トナリ、一通又到達  
 之ニ反シ、  
 到達セシ、  
 軍事情報トシテ、  
 トノ通信又同様、  
 外務省

衛生部特校五名、  
 食糧  
 三信仕者共、  
 外務省

15

就中藩府より精製油ヲ得ラルルハ甚ク幸ナル旨ヲ表明セリ。  
 俵等ノ料理ヲ一層美味ニスル此ノ精製油ハ俵等達ニ許ラ  
 セカシ。  
 米及魚ノ給子ハ充分ナル旨表明シ居レリ。  
 炊事設備ハ三ツコシバウンド共々満足スベキモノト報告ス居レリ。  
 十初ノ兵員(下士官及兵士並ニ作業部隊)ハ一週三五本ノ巻煙草  
 ノ自費給子ヲ受ケ居レリ。更ニ  
 級等ヲ取りテ酒保ニ於テ巻煙草乃至煙草ヲ專費購買し購入シ得ルニ  
 比較的少額ノ存貯金力ヲ働シホリ。ト事ヲ敷キ  
 不レト申シ能ナリ。然レトモ予等俸給ハ比較的働クガ少額ヲ金ヲ持  
 ニ近キサレバ、大分其ノ購込費用等ヲ貯蓄ホリ

16

専ら此ノ如クハ給子モ級等ノ大部分ニ渡シ得ルナリ。  
 將校ハ週卅三俵ノ巻煙草(本並ニ煙草一、オンスヲ購入  
 シ得。  
 三ツコシバウンド共々依然トシテ衛戍地ノ酒保ヲ比較的小量  
 ノ購入ヲ利用シ居レリ。  
 今ノ状態ニ在リテ小未カクハレノ三ツコシバウンドニ於テ酒保ノ開設ナシ  
 キ値ニモホシキナリ。  
 衛戍地酒保ニ於テ級等ノ今年購買額ヲ利シ昨年末ノ利率  
 小部等ヲ支拂シ右利率金ハ充分ナル旨ヲ表明シ居レリ。  
 外務省



在利養金小右、ユババントニ於テ一般自體費ニ好中利用  
兼使用セラレ居レリ。

將校購買ニ對シテ、本利養金ハ支給トナレサリ。

收容所視察者ハ日本人俸給、購買ヨリ甚ホル全利養金ハ

兩、兵員ノモバカトトテ、分取セラルル、印象ヲ受ケガレ。

被服

全兵員ニ對シテ充分被服ノ準備ナラズ如何ナル苦情ヲ諸願

手帳簿所規ニ對シ提出セラレザリ。

將校連ハ被服ノ備品ヨリ入手セラル、豫備品又ハ新購買ニ對シ

外務省

才一回支給ハ、東金無償ニ行ハレサリ。

被服ノ準備、豫備品ヨリ入手セラル、豫備品又ハ新購買ニ對シ

テハ、將校連ハ價格ノ半分、支給トナレサリ。

外部ヨリ購買ハ、將校連ハ今日迄充分ニ配給切付ヲ有セザル

故ニ急ケレ居ラレサリ。

從中、被服ハ、半局ニ對シテ、新ク切符、配給ヲ得ル事

要請願

集團長ハ本請願ヲ半局ニ對シ、傳達トシ、將校連カ、店舖ニ於

テ、本請願ヲ、購買ナル、新ク切符ヲ得ル事、

外務省

了り解セル旨ヲ報告ス居リ。

衛生設備

検査所視察者ハ衛生設備如何トモ変化ヲ認メ得ザリ。

本設備ハ良好ナル状態ニシテ又清潔ナリ。

兵員ハ共同浴場ヲ日本風ニ建築スルモ許可セラレヤ否ヤ

ヲ質問セルハ

彼等ハ斯クハ如キ浴場ハ單ニ水量ノ多ク燃料ヲモ又節約

ナルト見解ヲ有セリ。

検査所長ハ本件ニ決然ト見解ヲ示シ達成ヲ企圖スルヲ約束セリ。

外務省

然レテ亦テ彼ハ冬季前ニ小斯ク如キ設備ハ必要ナラズ

或モ不ト見解ヲ有セリ。

前視察以來病院設備ヲ用シ日本ハ停務ハ爾末完全ニ分離

收容セラレ居ル限リニ於テ亦モ変化ヲ爲セリ。

右變化ニ依リ歐洲人停務ニ對シ新ニキ病院建設ガ

能クナリ。

醫師及齒科醫ノ治療ハ全員ニ依リ十分且ツ満足スベキモノナリ

報告ス居リ。

眼科専門醫ノ診察ハ二三回行ハレ停務ノ數名ハ眼鏡ヲ

外務省

給子セシタリ

禮拜

禮拜ハ停務ニ依リ要求アレ居ラズ

勿論作業部隊ノコトバンドハ時々新教ノ禮拜ヲ行ヒ又或種

ノ事淑カ特ニ新採用アレ居ル由テ報告ス者ナリ

給子

將校連ハ次表ニ依リ給料ヲ支給サレ居ルリ

陸軍大尉 八奉十七志一カ

一等陸軍大尉 六奉二志九カ奉一カ

外務省

并等陸軍大尉 五奉二志五カ

臨時將校見習將校 二奉十志二カ奉十カ

右ノ收 食糧ニ対シ月ニ奉控除サレ居ル

兵員中ノ上等兵有給労働ニ従事スル故ニ奉金銭ニ付スル

慾望メ殆ンド有セズ

收容所長ハ米糶ノ事実上如何ナル種類ノ金額モ級等

力ニ有スル者ハ各自 裁量ニ依リ自由ニ奉シ得ル

自報告シ居ル

將校連ハ週五奉ノ限度トシ級等ノ規定ヲ引出シ得

外務省



労働  
 已ニ敷節ニ於テ表明セラルル如ク停業ノ少数ハ有給労働  
 者ニ限リ  
 停業中ノ有給労働ニ従フシモハ少額ニ過キス  
 大々敷ハ作業者未ダ於テ半ニ耕田ニ對シテ作業部隊ヲ編成  
 セテ耕作段ヲ進セリ  
 然レモ停業ハ堅固ナル理由ナク同盟罷業ヲ試ミ居ル故ニ  
 耕田ノ進歩ヲ行フ事ハ出来ナシ  
 従フテ耕地ヲ開墾シ荒蕪トスル事ハ伊國停業力  
 使用シ日本人停業ハ此ノ目的ヲ達スル所ナラズ

外務省

收容所長ハ特ニ此ノ莫ニ固シキ朝鮮人作業部隊ニ最モ  
 責任ヲ負フ旨ヲ表明セリ  
 苦情  
 信任者三名共彼等ノ收容所視察者ノ前視察以來收容所  
 策ヲ對シ如何ナル苦情乃至不平ヲ提出スル理由ヲ認めホリキ  
 報告ヲ居リ  
 又彼等ハ彼等ノ待遇ニ満足シ居ル旨ヲ報告シ居リ  
 收容所長ハ特ニ停業ノ進歩如何ヲモテモリ規程ニ従ハル故  
 彼等ノ規程的ナル作業部隊ヲ編成スル所ナラズ格ニ居リ

特ニ各団体ノ統合ヲ爲シ得ズ 外務省

又特ニ各作業部隊ノ現側のナル編成ニ當リ  
 信任者ハ再三再四編成ノ變更ヲ容テテ試ミシモ在東東小  
 收容所当局ハ同意スル所ナク又收容所長ハ特ニ是レヲ  
 朝鮮人ト在リテ困難ナレ旨ヲ表明セリ  
 東ト友ヒテ級ハ友邦人作業部隊ノ労働ヲ賞讃シ居レリ  
 右作業部隊小園數家トシテ優待ナリ  
 日本兵員ノコンビバンドニ因テ今小收容所長ハ級等小ナキ  
 命令ヲ受テテハ其ノ難色ヲ示スモ知レテ不共ニ  
 衛戍兵トノ協力ニ務メ著シテ困難ヲ示スモ知レテ不共ニ

外務省

産レリ  
 今日停務中ノ大部分ハ南米某諸級等ニ傳達セラルト  
 大抵理解スルニ充分ナル程度ニ理解セシメ拘ラズ停務公命  
 今ハ級等ニ取リ不都合ナル場合ニ言語不通ヲ理由トシ居レリ  
 收容所長ハ日本兵員小舎内ニ於テモ又小舎外ニ於テモ  
 徴収ノリハ満足セズ  
 收容所現察者ハ收容所長ノ苦情ヲ決定的ニ擁護セラル  
 才得テ仍故ナラバ級ハ自身ヲ小舎ニ於テモフシテ不共ニ  
 才モ短暗雨ナク日朝某級ニ強小隊ヲ遣ヒテ諸警ヲ示ス

外務省



ヲ確認シ居ルナリ。

彼ノ著作ハ、際々「コロン」トシテ、信任者ノ事務室ニ亦テハ

半時以上ニ汎リ、室内ニ其ノ机ニ長椅子、其ノ上ニ着席

出来得ル程清潔ヲ保テ居ル。

運動及娛樂

目下日本人將校ニ對シテ建物ヲテ、散步ヲ許ラズ居レリ。

散步ハ毎週數回行ハレ居ル。

將校連ハ、差タリテ日ニ練筆ノ長ニ對シテ後メ練筆ヲ教テ

書ニテキ日報告書ス様ヲ依頼セラレタリ。

外務省

作業部隊連ニ日本兵員ハ其ノ長ニ對シテ數回練筆ヲ

許シ居ル。

收容所ハ其ノ停務連ノ有給労働ヲ容テ居ルナリ。

本概テ右行爲ヲ容スニ適サレ故ニ本件ヲ今日進許ヲ

シテ居ル。

即チ又收容所長ニ報告ニ因テ許ラズルハ持テテ成セカレ

取テ。

收容所規程者ハ收容所長トシテ、合議ニ結テ收容所長ハ

今ニ中ノ「コロン」ヲ收容者ヲ對シテ、練筆ガ一般ノ秩序及規則

外務省

29

ニ服従スルナラバ直ニ規則外出ヲ許ラズル意思アルコト  
 明クセリ

特ニ日本兵員ノ規則外労働ノ遂行ヲ拒絶セシメ↓ハ收容  
 所長ヲ激怒セシメテ

加フルニ朝鮮人作業部隊俾テ種々ナル罷業ヲ行ハシメ  
 シ、コトバウンド其野球(他ノ種)ヲ行ハシメ  
 俾テ連日ハ輪流等々今日南在運動キナル見合ナリ  
 設備改善トシテ之ヲ表明セリ。

其他ノ運動キナリモ同様ナリ

外務省

30

余ルコトハインドポル(若クハポル)ハ東洋ニ良好ニ組織セラレ  
 タル唯一ノ遊戯ナリトシテ如シ

更ニ日本兵員ニ相撲(其ノ他)ノ運動遊戯ヲ行ハシメリキ  
 日本兵員ノ信任者ハ收容所長等ヲ介シテ收容所長キ  
 対シテ彼等ノコトバウンド内ニ正規ノ運動場ヲ建設セラレ得  
 ル様請願ヲ行ヒ

茲ハ其ノ爲メトシテコトバウンド内ニ工作業ヲ行ハシメ又  
 乗馬及機械等事ナラズヨリ表明セリ

收容所長等ハ信任者ニ対シテ信任者ハ特ニ俾テ場ヲ備ヘ

外務省

<p>今日連労働ヲ拒否(モルカ)トシテ ヨリ馬具ノ提供ヲ ト援助ハ拒否ト期待シ得ルモノヲ表明セリ。</p>	<p>收容所視察者ト信任者ニ対シテ ニ於テ本館ト数人内ノ以テ ヲ建設トシテトハ特ニ信任者自身トシテ 内部トシテ労働カセシトシテ困難ナラント謀ル故ニ不可能 オシヨリ説明セリ。</p>	<p>三ノミハラント夫正規ノ講義ヲ 收容所視察者ハ之ヲ好ミ 授業ハ トシテモ トシテモ トシテモ</p>	<p>後筆ト右ノ書籍ノ不足ニ歸セリ トシテモ トシテモ トシテモ</p>	<p>受ケタリ 收容所視察者ハ國際赤十字社委員及Y.M.C.A代表者 ニ依頼スルモノヲ信任者ニ對シテ傳達セリ。</p>	<p>作業部隊ハY.M.C.A米飯ヲ書籍數冊ヲ入手シ居ルモ 又然レ級等ト小教師ト不足セリ故ニ議ヲ行フ事ト不能ナリ リト報告セ居レリ。</p>	<p>中翰(又ノ日本語本級)ニ存在セリ。然レモ此處ニハ收容所 外務省</p>
---	--	--	--	---	--	--



此報の内容が新しき資料を採りし

之に及ばず他は全部昭和十一年の資料に依りて

30

之等將校連ハ勉強ニ努ムニ從事シ又(多数ノ書籍ヲ自ラ

カテ所有シ居リ)

主として科学的及技術的ナル

↑ 調査シ居リ

將校(日本兵兵員)ハ于日本日刊新聞ニ部宛テ週刊ボウカ

教部ヲ入手シ居ル

ハ本邦ニ在リテ作業部隊ヲコンパウンドニ有キ本邦東南ニ在リテ

認メ得ルハ茲ニモラシキラス

ハ英米諸國ニ在リテモ其故跡ヲ見

此事ハ此等作業部隊員ノ中ニハ何人モ英語ノ讀解力

外務省

才評價ヲ得ルナリニ歸スルモノナリ

△ 之等ノ者ニ付テハ(註)

備成地ノ通譯將校ハ時々本業ノ人々ニ一般的世界状況ハ

カテ外界ノ事情ヲ簡單ニ説明シ居リ

簡單ニ解釋セシメテト夫外界ニ接スル

ト居ルトハ傳ハルモノ一般世界状況ノ簡單ニ解釋

トモテ居ル

日本兵員ニ在リテハ作業部隊ニ在リテモ此等カ

音楽ヲ行ヒ居ル

收容者ノ大部分ハ樂器ヲ自身ヲ作製シ居レリ

之ニ反シテ將校ハ多数ノ樂器ヲ自ラ及蓄音機ヲ有シ居レリ

外務省

35

Y.M.C.A. 作業部隊ニ対シ蓄音機一台及レコード  
 数ヲ寄贈スルアリ

西兵負コムバウンドニ於テハ他時折劇が演じられ

規律

處罰訓ハ概シテ比較的ニ少キト認マレル

收容所視察者ニ対シテ作業部隊コムバウントニ於ケルニ  
 規程ニ對スル輕微ナル違反ノキキ場合ニ就テ報告カレ居

日本外務省員停務兼甘山本タツシPWA-A-四五〇八四号

外務省

36

ハ甘山本其備式下士官ニ對スル違反及停務ヲ訴追セラレシ

トモ申テ彼小單独ニ行キ以テ甘山本下士官ヲ侮辱スル

キトス

\* 在シドニニ瑞西國領事館ハ本件ニ關シ通時報事者ヲ

言テ在倫敦瑞西國公使館特別屋ニ對シ電信ヲ西電号

ヲ以テ本件ヲ通報ス

各コムバウンドニ於テ同日ニ同本員検査が行ハレ居レリ

莫呼ハ比較的長ク時間向隔ニ於テ行ハレ居ル

一般狀況

外務省

全管理人員其職員ト公謀ノ結果停務連一般の  
 健康状態ハ良好トモト認マラレタリ  
 停務ノ大部分ハ淋病熱帯病ノ回復ニ其マラヤリ  
 再歸勲モ次々ニ減少シテ模様ナリ  
 停務連ノ成績ハ優劣ナリト認マレタリ  
 一ノ言ハニシテバ、(ナリ) 治癒ニ基テモナリ  
 加ルル本籍ニ寄リテモト説明ナリ  
 將校ノ道徳及規律ハ彼等自身又收容所長ニ倚リ優待ナリ  
 生ノト報告セリテモ、モトモト日本兵員及作業部隊ノ  
 両ノコンビラントモナリト認マレタリ  
 駐屯地ノ規律

外務省

全管理人員  
 小満足ニモナリナリ、又收容所設備ノ於テハ健康状態ハ  
 彼等ノ見解ニ依テ同様ニ良好トモト報告ナリ  
 全停務全員ハ非見テ有テ労働ノ材トモナリ、又、全率  
 望リ有テ居ラレドモ、收容所親密者ノ往來ハ甚ナリ  
 停務連ハ級等ニ分テテ、  
 如シキ方法ノ改善モ、  
 全兵員ノ命令中、南米規則トモト、三ノ五本ノ巻煙草ヲ入手シ  
 居ルハ、  
 現金ヲ必要トセザルナリ。

外務省



本レキリ未熟ナリノ糧草輸入ノ考ナキ事案ナレトモナリト有給  
 帶働ナリト知事ガ移テ存在シ能ク。

日本又兵費ノ管理ナキ事依リ收容所現察者ニ対シテ取イノ收容  
 所ニ依テテ支給トモナリ前ノ有給労働ニ対スル金額小  
 若人ノ貸方ニ記入シテ報章ニ登リ。

管理人又取リ得ル本件面ヲ保護國代表ノ盡力  
 ニ対シテ個人ノ收束所現察者ニ感謝シ居レリ。

一九四四年一月二十七日、ナルホルンキチキチ

瑞西國領事署在親察者、イ、ブラムク記

外務省

27		28	
国ノ人介ノ食糧目録		単位英封度	
牛肉	五〇封度	バイキニクバシダ	一五封度
羊肉	二五〇封度	チーズ	五封度
豚肉	一五〇封度	フーヒ	二封度
鮮魚	三〇〇封度	カレー粉	一封度
印	ハ、五打	カサネ粉	八四封度
パン	四二〇封度	乾燥果実	四封度
バター	五封度	シヤム	
ビスケツ	五封度	油(食用油)	二カロン

外務省

胡椒	ニ分上封度	馬鈴薯	一三ニ封度
米	七〇〇	球葱	四九
砂糖	一〇五	野菜	一六〇
塩	三五	新鮮野菜	二〇〇個
茶	七	野菜	一四〇封度
トマトソース	二〇		
ソース	二〇		
酢	二六		
ミルク	二〇		

外務省





MAX

Ass: 交書課往復係  
International

在横濱に於ける赤十字委員代表名	月 19 日附
作 一ノトリの国際赤十字委員会代表	
名 二ノトリの赤十字委員代表	
送付件	

YOKOHAMA-CHO, NAKA-KU  
YOKOHAMA  
(2) 1437-8-9  
YOKOHAMA - YOKOHAMA

Ref.No.131

G.T.1133

NOTE TO GAIMUSHO

在敵國居留民關係事務室

昭和拾九年四月廿六日受

RE VISIT BY THE I.R.C.C. DELEGATE IN AUSTRALIA TO JAPANESE POW AT COWRA GROUP ON MARCH 22/24, 1943:

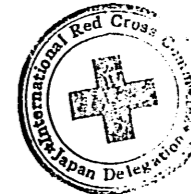
The Japan Delegation of the I.R.C.C. presents its compliments to the Gaimusho and has the honor to append copy of a telegraphic communication from the International Red Cross Committee in Geneva under date of April 12, 1944, concerning the subject matter.

The Japan Delegation of the I.R.C.C. should be grateful to the Gaimusho for transmission to the Huryo-johokyoku of the appended additional copy of the above-mentioned telegraphic communication from Geneva accompanied by a covering Japanese translation.

The Japan Delegation of the I.R.C.C. wishes to thank the Gaimusho already at this juncture for its kind attention and assistance.

Yokohama, April 19, 1944

Encl. 2 copies of abovementioned telegram



記帳

COPY OF TELEGRAM RECEIVED

BY THE DELEGATE OF THE INTERNATIONAL RED CROSS COMMITTEE FOR JAPAN

Telegram received Yokohama April 16, 1944

DELEGATE MM AUSTRALIA VISITED 22 to 24  
MARCH COWRA GROUP JAPANESE POW STOP

CAMP 12D <sup>14</sup>FOURTEEN OFFICERS <sup>538 F士</sup>FIVEHUNDREDTHIRTY-  
EIGHT NCOS AND MEN STOP <sup>103</sup>12B ONEHUNDREDTHREE MEN  
SIXTYEIGHT <sup>68</sup>CIVILIAN INTERNEE WOMEN STOP  
TREATMENT EXCELLENT HOUSING GOOD FOOD ABUNDANT  
CLOTHING ADEQUATE HEALTH HYGIENE GOOD COMMA  
12D <sup>22</sup>TWENTYTWO PATIENTS 12B FIVE STOP PAID  
WORK CAMP 12D SIXTEEN 12B FIVE COMMA POW  
ASK SPORT ARTICLES MUSICAL INSTRUMENTS  
SCHOOL MATERIAL BOOKS DICTIONARIES COMMA  
CONSIDER IT IMPORTANT GRANT CERTAIN FUNDS FOR  
COLLECTIVE PURCHASING SINCE JAPANESE NCOS AND  
MEN RECEIVE NO MILITARY PAY STOP CAMPS LEAVE  
EXCELLENT IMPRESSION

Bericht No. 431  
 über den Besuch des Lagers No.12 D  
 für japanische Kriegsgefangene  
 in COWRA

am 6. Januar 1944.

Bezeichnung des Lagers: Prisoners of War Camp No. 12D,  
 COWRA, N.S.W.

Lagerkommandant: Captain E.D. Lees  
 Adjutant und  
 Quartiermeister: Lt. Forrest

.....  
 Sektion 1.

Lagerführer und  
 VERTRAUENSMANN: T. MINAMI No. 110001  
 Stellvertreter: YAMAKAWA J. No. 110009  
 Fassungsvermögen des  
 Lagers: ca. 500 Mann  
 Belegungsstärke am  
 Besuchstage: 359 Mann

KAMPFTRUPPEN:-		TOTAL
Untereffiziere	68	344
Soldaten	276	

SANITÄTSPERSONAL:		Armee	TOTAL
Untereffiziere	2		15
Soldaten	13		

Der Lagerführer war nicht in der Lage, den Besucher mit genauen Zahlen der Verteilung der Kampftruppen zu versehen.

TOTAL		TOTAL
		359

Sektion 2.

Lagerführer und Vertrauensmann: AHAN SHAN SHASE No. 145340  
 Stellvertreter: RIKO JUN No. 14526

Bericht No. 431,  
 Lager 12D, Cowra.

- 2 -

Fassungsvermögen des Lagers: ca. 500 Mann  
 Belegungsstärke am Besuchstage: 97 Mann

		ARBEITSTRUPPEN:	TOTAL
Koreaner	...	87	97
Chinesen	...	10	

Sektion 3.

Lagerführer und Vertrauensmann: SUEKICHI TSUKUHARA No.145545  
 Fassungsvermögen des Lagers: ca. 26 Mann  
 Belegungsstärke am Besuchstage: 14 Mann

KAMPFTRUPPEN:-	Armee	Kriegsflotte	Luftwaffe	TOTAL
Offiziere	5	1	2	8

SANITÄTSPERSONAL:-		TOTAL
Offiziere (Ärzte)	5	5

HANDELSMARINE:-		TOTAL
Offiziere	1	1

TOTAL 14

Lager und Unterkunft.

3. In der allgemeinen Anlage des Compounds ist seit dem letzten Besuche in keiner Weise eine Änderung eingetreten. Der Compound selbst ist nach wie vor in drei Sektionen eingeteilt, welche durch einfache Stacheldrahtzäune getrennt sind. Mit Ausnahme einer Ausdehnung der Lagergärten haben es die Insassen allem Anschein nach nicht fuer nötig gefunden, ihr Lager weiter auszubauen. Der Lagerbesucher ist entschieden unter dem Eindruck, dass die Leute dazu zu träge sind, oder eine Verbesserung

ihrer Umgebung nicht für nötig halten.)

Eine Besichtigung des Lagers sofort nach der Morgeninspektion zeigte, dass sich alle Hütten usw. in bester Ordnung und Reinlichkeit befanden. Dagegen machte der Besucher am Nachmittag die Erfahrung, dass diese Reinlichkeit allem Anschein nach nicht sehr lange anhält und ganz besonders die Hütten der japanischen Soldaten boten am Nachmittag ein ziemlich trauriges Bild von Unordnung und fraglicher Sauberkeit. Verschiedene Garnisonsoffiziere teilten dem Besucher mit, dass die Aufrechterhaltung von Ordnung und Reinlichkeit ganz besonders in der Abteilung der japanischen Soldaten ihre grösste Schwierigkeit sei. Sie machten darauf aufmerksam, dass in dieser Beziehung die Koreaner der Arbeitstruppen bedeutend reinlicher seien.

Die japanischen Offiziere, welche in einer separaten Abteilung untergebracht sind und auch heute noch alle ihre Arbeiten selbst besorgen, dagegen zeigen gute Ordnung und Reinlichkeit.

Alle Kriegsgefangenen sind in Wohnhütten untergebracht, Soldaten und Unteroffiziere in Einheitshütten des neuen Typs, je 56 Mann pro Hütte, die Offiziere dagegen in Zimmern, welche normalerweise Raum für je zwei Mann bieten. Da aber die Zahl der Offiziere heute noch eine verhältnismässig kleine ist, ist es den Leuten möglich, fast ausnahmslos allein in einem Zimmer zu wohnen.

Jede der beiden Abteilungen für Soldaten und Unteroffiziere enthält je eine Küche und zwei Esshütten. Normalerweise wird in beiden dieser Abteilungen je nur eine Esshütte für solche Zwecke verwendet, die andere dagegen entweder als Theater oder Aufenthaltsraum benützt.

Die Offiziere haben nebst den beiden Wohnhütten eine solche welche das Esszimmer sowie einen Aufenthaltsraum und die Küche enthält. Im Aufenthaltsraum befindet sich ein Klavier. Dieser Raum wird auch als Schreibzimmer usw. verwendet. Der Fussboden der beiden grösseren Hütten ist talwärts ziemlich

hoch über dem Erdboden gelegen und die Offiziere benützen deshalb diesen Teil unter der Hütte als eine Art Veranda, welche im Sommer sehr kühl ist. Sie haben dort ihre Liegestühle aufgestellt und manche studieren hier an kleinen Tischen.

4. Die ganze künstliche Beleuchtung in allen drei Abteilungen ist elektrisch, sowohl in den Hütten wie auch ausserhalb auf den Strassen und Plätzen. Künstliche - und Tagesbeleuchtung wird von jedermann als vollständig befriedigend angesprochen.
5. Die gesamte Mannschaft schläft immer noch auf dem Boden. Irgendwelche Beschwerden in dieser Hinsicht wurden nicht gemacht. Viele der Leute haben sich ihre eigenen Kissen hergestellt.

Die Offiziere haben ohne Ausnahme Bettstellen, Matratze, Betttücher und Kissen.

6. Nur die koreanische Abteilung meldete, dass sie ein Exemplar der Genfer Konvention vom Jahre 1929 in japanischer Sprache besitze. Die japanische Abteilung, wie auch der Offizierscompound dagegen verfügen noch nicht über eine solche Abschrift. Die Angelegenheit wurde dem Kommandanten unterbreitet und auf dessen Bitte hin nachher mit dem Gruppenkommando aufgenommen, welches versprach, sofort das nötige anzufordern.

#### Eigentum der Kriegsgefangenen.

7&8. Wie bereits frueher gemeldet, wurde den Leuten bei ihrer Gefangennahme alles abgenommen; selbst für Uhren, Brieftaschen usw. wurden keine Quittungen ausgestellt. Die Leute meldeten, dass viele darunter Sachen verloren hätten welche ihnen sehr teuer waren und fragten den Lagerbesucher ob es nicht möglich sei, auf irgendeine Weise ihren Besitztum wieder zurück zu erhalten. Der Lagerbesucher empfahl deshalb den Lagerführern, durch jeden einzelnen Insassen eine Aufstellung der ihnen abgenommenen Artikel machen zu lassen und dem Lagerkommandanten mit der Bitte einzureichen, das nötige zu veranlassen. Je eine Kopie dieser Gesuche sollte vorläufig von den Einzelnen zurückbehalten werden und im Falle die Militärbehörden in dieser Ange-

legenheit nichts unternehmen sollten, dem Schweizerischen Generalkonsulat in Sydney zur Behandlung eingesandt werden.

Postverkehr.

- 9&10. Alle Kriegsgefangenen ohne Ausnahme weigern sich immer noch, in irgendeiner Form oder Weise ihren Angehörigen Mitteilung von ihrer Gefangenschaft zu machen.
- 11-13. Aus dem gleichen Grunde erwarten sie deshalb keine Pakete, weder von ihren Familien, noch von irgendeiner Institution in Japan.
14. Briefe sind bis heute immer noch keine angekommen und die Kriegsgefangenen erwarten solche auch nicht. Dagegen meldeten die Mannschaften, dass eine Anzahl Pakete vom Y.M.C.A. (Verein christlicher junger Männer) eingegangen sei.
15. Es wurde dem Lagerbesucher bedeutet, dass sozusagen der ganze Verkehr mit den Militärbehörden ausschliesslich auf mündlichem Wege erfolge und das gleiche könne auch vom Verkehr mit der Vertretung der Schutzmacht gesagt werden.
16. In der Sektion 1 befinden sich 2 Sanitätsunteroffiziere und 13 Sanitäter, in der Sektion 2 ein Sanitäter und in der Sektion 3 5 Sanitätsoffiziere (Ärzte).

Verpflegung.

- 17-19. Ueber die Beköstigung melden alle drei Lagerführer, dass sie in keiner Weise Beschwerde führen könnten. Die gebotene Kost sei in jeder Weise zufriedenstellend und genügend. Wohl machten sie nochmals darauf aufmerksam, dass es ihnen sehr willkommen wäre, wenn es möglich sein sollte, von Japan gewisse nationale Spezialitäten zu bekommen, ganz besonders die bekannte Soya Sauce. Diese würde den Leuten erlauben, ihre besonderen Gerichte noch schmackhafter zu gestalten. Es wurde darauf aufmerksam gemacht, dass die Rationen von Reis und Fisch ausreichend seien.
20. Die Küchenausstattung wird von allen drei Abteilungen als befriedigend gemeldet.
21. Alle Mannschaften (Untereffiziere und Soldaten wie auch Arbeits-

truppen) erhalten eine wöchentliche Freiausgabe von 35 Zigaretten. Es ist ihnen möglich, in der Kantine weitere Mengen Zigaretten oder Tabak zu kaufen, da aber nur verhältnismässig wenige der Leute arbeiten, sind die meisten von ihnen nicht imstande, irgendwelche Ausgaben zu machen, da ihnen dazu das nötige Geld fehlt.

Den Offizieren ist es möglich, pro Woche 100 Zigaretten nebst einer Unze Tabak zu kaufen.

23. Alle drei Abteilungen benützen immer noch die Kantine der Garnison für ihre verhältnismässig kleinen Anschaffungen. Es würde sich unter den heutigen Umständen noch nicht lohnen, weder in der einen noch der andern Abteilung, eine Kantine zu eröffnen.

24. Für ihre bisherigen Einkäufe in der Garnisionskantine ist ihnen am Ende letzten Jahres ein Überschuss ausbezahlt worden, welcher als befriedigend angesehen werden kann. Dieser Überschuss ist in jeder Abteilung für Anschaffungen, die der Allgemeinheit zugute kommen, verwendet worden.

Für die Einkäufe der Offiziere ist diesen kein Überschuss ausbezahlt worden. Der Lagerbesucher ist jedoch unter dem Eindruck, dass der gesamte Überschuss aus Einkäufen der japanischen Kriegsgefangenen auf die beiden Abteilungen der Mannschaften verteilt wurde.

Bekleidung.

25. Die gesamte Mannschaft ist mit genügend Kleidung versehen worden und irgendwelche Beschwerden oder Gesuche wurden dem Lagerbesucher nicht vorgebracht.
26. Die Offiziere meldeten, dass sie tatsächlich mit Kleidung gut ausgestattet seien. Die Erstaussgabe ihrer Bekleidung erfolgte vollständig gratis. Für Ersatz oder neue Anschaffungen, welche sie aus Vorräten des Quartiermeisters beziehen, müssen die Offiziere den halben Preis bezahlen. Anschaffungen von auswärts konnten soweit nicht gemacht werden, da es den Offizieren bis jetzt an den nötigen Rationierungskarten fehlte.

Sie haben sich deshalb an die Behörden gewandt um eine Ausgabe solcher Karten zu bekommen. Das Gruppenkommando meldete, dass dieses Gesuch an die Oberbehörden weitergeleitet worden sei und es bestehe jede Wahrscheinlichkeit, dass die Offiziere solche Karten bekommen, um ihnen zu ermöglichen weitere Einkäufe in den Läden der Stadt zu machen.

Sanitäre Einrichtungen.

27. Irgendwelche Änderungen der sanitären Anlagen konnte der Lagerbesucher nicht finden. Diese Anlagen sind in bestem Zustande und Reinlichkeit.

Die Mannschaften fragten an, ob es ihnen wohl bewilligt würde, ein Gemeinschaftsbad nach japanischem Muster zu bauen. Sie sind der Ansicht, dass ein solches Bad nicht nur Wasser, sondern besonders auch Brennmaterial sparen würde. Der Kommandant hat davon Notiz genommen und versprach, die Angelegenheit zu untersuchen. Er ist jedoch der Ansicht, dass vor dem Winter kaum eine Notwendigkeit für eine solche Anlage bestehe.

28&29. Seit dem letzten Besuche ist in der Anlage des Spitals insoweit eine Änderung eingetreten, als die japanischen Kriegsgefangenen nunmehr vollständig separat gehalten werden, was durch den Bau eines neuen Spitals für die europäischen Kriegsgefangenen ermöglicht wurde.

Ärztliche wie auch zahnärztliche Behandlung wurden von allen als genügend und befriedigend gemeldet. Auch haben bereits zwei Besuche eines Augenspezialisten stattgefunden und eine Anzahl der Leute sind seither mit Brillen versehen worden.

Gottesdienst.

32. Gottesdienste werden von den Leuten nicht verlangt. Die Abteilung für Arbeitstruppen meldete allerdings, dass dann und wann protestantische Gottesdienste abgehalten werden und eine gewisse Sekte scheint sich ganz besonders deren anzunehmen.

Besoldung.

33. Den Offizieren wird der Sold nach folgender Liste ausbezahlt:-

Hauptmann	£ 8.17. 1.	}	monatlich
1. Leutnant	6. 2. 9 1/2		
2. Leutnant	5. 2. 5.	}	
Provisorischer Offizier (Probationary Officer)	2.11. 2 1/2		

Von diesen Beträgen wird ein monatlicher Abzug von £ 2. 0. 0. für Verpflegung gemacht.

34. Da nur wenige unter den Mannschaften bezahlte Arbeit leisten, besteht kaum je ein Verlangen nach Geld. Der Lagerkommandant meldete, dass diejenigen welche tatsächlich irgendwelche Beträge auf ihren persönlichen Konti haben, über diese nach eigenem Ermessen verfügen können.

Die Offiziere dürfen bis zu einem Maximum von £ 5.0.0. pro Woche von ihrem Konto abheben.

Arbeit.

36. Wie bereits unter verschiedenen Paragraphen bedeutet, leisten nur wenige der Kriegsgefangenen bezahlte Arbeit. Im letzten Jahre wurden eine ganze Anzahl Arbeitsgruppen gebildet, hauptsächlich für Feldarbeit.

Die Leute veranstalteten aber aus den geringsten Gründen Streiks, sodass es nicht möglich war, die Feldarbeiten richtig zu besorgen. Die Felder mussten deshalb, um grössere Verluste zu vermeiden, an italienische Arbeiter abgegeben werden und die japanischen Kriegsgefangenen wurden daraufhin zu Hause gelassen. Der Lagerkommandant machte ganz besonders darauf aufmerksam, dass die koreanischen Arbeitstruppen in dieser Hinsicht am meisten schuldig gewesen seien.

Beschwerden.

40. Alle drei Lagerführer meldeten, dass sie seit dem letzten Besuche des Lagerbesuchers keine Ursache gehabt hätten, dem Kommandanten irgendwelche Klagen oder Beschwerden vorzubringen. Sie seien mit ihrer Behandlung zufrieden.

41. Der Lagerkommandant beschwerte sich ganz besonders darüber, dass es ihm unmöglich sei, regelmässige Arbeitsgruppen bilden zu können, weil die Leute sich den Vorschriften nicht in jeder Weise unterziehen wollen, besonders was die regelmässige Zusammensetzung der einzelnen Arbeitsgruppen betreffe. Die Lagerführer versuchten immer und immer wieder, in diesem Zusammenhang Änderungen vorzunehmen, welche der Kommandatur nicht genehm sind und der Kommandant machte ganz besonders darauf auf-

merksam, dass in dieser Hinsicht die Koreaner besonders schwierig seien. Dagegen lobte er die Arbeit der chinesischen Arbeitstruppen, welche ganz besonders als Gärtner sich hervortäten.

Was die Abteilung der japanischen Mannschaften anbetrifft, beklagte sich der Kommandant darüber, dass sie nur mit Schwierigkeit dazu gebracht werden könnten, gegebene Befehle richtig zu befolgen und ihre Zusammenarbeit mit der Garnison sei deshalb eine äusserst schwierige. Trotzdem sich unter diesen Leuten heute eine ganze Anzahl befinden, welche die englische Sprache nunmehr genügend beherrschen, um so ziemlich alles zu verstehen was ihnen übermittelt wird, verstecken sich diese Leute immer noch hinter der Sprachschwierigkeit wenn ihnen gewisse Befehle nicht passen. Überraschenderweise beklagte sich der Kommandant auch darüber, dass die japanischen Mannschaften weder in ihren Hütten noch ausserhalb reinlich genug seien. Der Lagerbesucher muss diese Beschwerde des Kommandanten entschieden unterstützen, indem er sich persönlich davon überzeugen konnte, dass weder die Hütten noch der Compound im allgemeinen, mit Ausnahme der kurzen Zeit vor und direkt nach der morgentlichen Inspektion, sauber waren. Bei seinem Eintritt in die Schreibstube des Lagerführers der Sektion 1 dauerte es mehr als eine halbe Stunde um den Raum, wie auch Tische und Bänke soweit sauber zu bekommen, dass man sich auf diesen niederlassen konnte.

Mit der Aufführung der Offiziere war der Kommandant zufrieden.

#### Gestaltung der Freizeit.

42. Zur Zeit ist es nur den japanischen Offizieren erlaubt, auf Spaziergänge aus dem Lager zu gehen. Diese werden mehrere Male wöchentlich veranstaltet. Die Offiziere wurden gebeten, ihren Kommandanten jeweilen am Tage vorher Mitteilung zu machen, dass sie spazieren gehen möchten.

Sowohl die Arbeitstruppen, wie auch die japanischen Mannschaften haben den Kommandanten mehrere Male gebeten, dass

auch ihnen Ausflüge, resp. Ausmärsche gewährt würden. Der Kommandant hat dies jedoch bis jetzt abgelehnt, erstens weil die Leute keine bezahlte Arbeit leisten und zweitens, sich im grossen und ganzen nicht entsprechend aufführen; deshalb fühlt sich der Kommandant nicht gewogen, ihnen besondere Privilegien zu gewähren. Die Besprechung des Lagerbesuchers mit dem Kommandanten ergab, dass letzterer ohne weiteres gewillt wäre, den Insassen des Compounds 12D regelmässige Ausmärsche zu gestatten, sobald sich diese besser der allgemeinen Ordnung und Disziplin unterwerfen. Besonders die Verweigerung der japanischen Mannschaften, regelmässige Arbeit zu leisten, hat den Kommandanten ganz erheblich erbost; dazu kamen noch die verschiedenen Streiks von seiten der koreanischen Arbeitstruppen.

In allen drei Abteilungen wird etwas Baseball gespielt. Die Leute machten allerdings darauf aufmerksam, dass ihnen auch heute noch eine vollständige Ausrüstung zu diesem Spiele fehle. Das gleiche gilt auch für andere Sportarten; Handball (Volleyball) scheint das einzige Spiel zu sein, welches wirklich gut organisiert ist. Dazu kommt noch japanisches Ringen und etwas athletische Spiele.

Der Lagerführer der japanischen Mannschaften bat den Lagerbesucher bei der Kommandatur vorstellig zu werden, dass in ihrer Abteilung ein richtiger Sportplatz gebaut werden könne. Er machte darauf aufmerksam, dass dazu ziemlich grosse Erdbewegungen nötig seien und bat um Pferde, Maschinen usw. Der Lagerbesucher machte den Führer darauf aufmerksam, dass er kaum erwarte, solche Unterstützung vom Kommandanten zu bekommen, besonders deshalb nicht, weil die Leute sich bis jetzt geweigert hätten, Arbeit zu leisten. Der Lagerbesucher erklärte dem Führer, dass es in einem solch grossen Compound, mit so vielen Leuten, ohne weiteres möglich sein sollte, mittelst Handarbeit einen Sportplatz anlegen zu können, besonders deshalb, als der Lagerführer selbst zugeben musste es sei schwierig die Leute innerhalb des Compounds richtig zu beschäftigen.



43. In keiner der drei Abteilungen sind richtige Schulkurse eingerichtet. Der Lagerbesucher hat den Eindruck, dass dafür kaum viel Interesse besteht, trotzdem der Lagerführer der japanischen Mannschaften ihn zu überzeugen versuchte, dass es nur dem Mangel an Büchern zugeschrieben werden könne. Der Lagerbesucher empfahl dem Führer, sich an den Delegierten des Internationalen Roten Kreuzes zu wenden, wie auch an den Vertreter des Y.M.C.A.

Die Arbeitstruppen haben durch den Y.M.C.A. einige Bücher erhalten, meldeten aber, dass es ihnen nicht möglich sei, Schulkurse abzuhalten, weil es ihnen an Lehrern fehle. Es bestehe allerdings eine kleine Klasse für japanisch, aber auch hier scheint das Interesse verhältnismässig gering zu sein. Ganz anders sieht es dagegen bei den Offizieren aus. Diese haben sich vollständig aufs Studium verlegt und haben aus eigenen Mitteln eine grosse Anzahl Bücher, hauptsächlich wissenschaftlichen und technischen Inhaltes, angeschafft.

Die Offiziere, wie auch die japanischen Mannschaften erhalten je zwei Tageszeitungen und auch einige illustrierte Wochenzeitschriften. Dagegen ist in der Arbeitstruppen-Abteilung in dieser Hinsicht nichts zu finden. Dies wird darauf zurückgeführt, dass sich unter diesen Leuten niemand befindet der englisch lesen kann. Der Dolmetscher-Offizier der Garnison gibt den Leuten von Zeit zu Zeit eine kurze Uebersicht über die allgemeine Weltlage, um den Leuten wenigstens eine Ahnung zu geben was in der Aussenwelt vor sich geht.

Sowohl bei den japanischen Mannschaften wie auch bei den Arbeitstruppen wird etwas Musik getrieben. Die meisten Insassen haben sich diese Instrumente selbst angefertigt.

Die Offiziere dagegen haben eine grössere Anzahl Musikinstrumente, sowie ein Klavier und Grammophon.

Der Y. M. C. A. hat den Arbeitstruppen ein Grammophon und eine grössere Anzahl Platten geschenkt.

In den beiden Mannschaftsabteilungen wird übrigens dann und wann Theater gespielt.

Disziplin.

46. Bestrafungen sind im allgemeinen verhältnismässig wenige vorgekommen. Es wurden dem Lagerbesucher in der Abteilung der Arbeitstruppen einige wenige Fälle von kleinen Vergehen gegen die Disziplin gemeldet.
48. Der japanische kriegsgefangene Soldat YAMAMOTO TATSUMI, No. PWJA 145084 soll am 12. Januar vor Gericht kommen wegen Vergehen gegen einen Unteroffizier der Garnison, den er im Compound selbst mit einer Axt verletzte. Das Schweizerische Generalkonsulat in Sydney ist davon zeitig in Kenntnis gesetzt worden, und hat die Sonderabteilung der Schweizerischen Gesandtschaft in London mit Kabel No. 4141 davon unterrichtet.
49. Es werden in jedem Compound täglich zwei Zählungen vorgenommen. Namensappelle werden nur in grösseren Zeitabständen gemacht.

Allgemeine Lage.

Die Besprechung mit den verschiedenen Lagerführern und ihren Stäben hat ergeben, dass der allgemeine Gesundheitszustand der Leute als gut bezeichnet werden kann. Die meisten Leute haben sich von ihren tropischen Krankheiten erholt und die Rückfälle von Malaria sollen nach und nach abnehmen. Die Leute erklärten, dass die entsprechende ärztliche Behandlung, die sie als ausgezeichnet bezeichnen, viel dazu beigetragen habe.

Die Moral und Disziplin der Offiziere wird von diesen selbst, wie auch vom Kommandanten, als ausgezeichnet gemeldet, dagegen in den beiden Abteilungen für japanische Mannschaften und Arbeitstruppen nur als durchschnittlich bezeichnet. Alle Lagerführer meldeten dem Besucher, dass die Behandlung von seiten der Garnison eine befriedigende sei und die Zustände im Lager selbst nach ihrer Auffassung ebenso.

Aufgefallen ist dem Lagerbesucher, dass unter allen Kriegsgefangenen anscheinend wenig oder gar kein Verlangen nach bezahlter Arbeit besteht. Die Leute scheinen mit der ihnen gebotenen Nahrung vollständig auskommen zu können und eine Verbesserung in irgendeiner Weise nicht zu erwünschen. Da alle Mann-



schaften auch heute noch regelmässig ihre 35 Zigaretten pro Woche erhalten, benötigen sie kein Geld zum Ankauf von Tabak, was vielleicht auch dazu beitragen mag, dass wenig Verlangen nach bezahlter Arbeit vorhanden ist.

Es wurde dem Lagerbesucher durch den Führer der japanischen Mannschaften gemeldet, dass die vom Lager Hay ausstehenden Beträge für bezahlte Arbeit vor einiger Zeit den einzelnen Leuten gutgeschrieben wurden. Sowohl der Lagerführer, wie auch mehrere Kriegsgefangene, dankten dem Lagerbesucher persönlich für die Anstrengungen der Vertretung der Schutzmacht in dieser Angelegenheit.

MELBOURNE, den 27. Januar 1944.

DER SCHWEIZERISCHE KONSUL

*J. Brack*

Verfasst vom Lagerbesucher  
E. Brack.

RATIONENLISTE PER 100 MANN PRO WOCHE.

Rindfleisch	.....	50 lbs
Hammelfleisch	.....	25 "
Schweinefleisch	.....	50 "
Fisch	.....	300 "
Eier	.....	8 1/2 Dutzend
Brot	.....	420 lbs
Butter	.....	24 1/2 "
Biscuits	.....	5 "
Backpulver	.....	1 1/2 "
Käse	.....	5 "
Kaffee	.....	2 "
"Curry" Pulver	.....	1 "
Mehl	.....	84 "
Gedörrtes Obst	.....	4 "
Konfitüre	.....	21 24 Unzen Büchsen
Öel (Cheffol )	.....	2 Gallonen
Pfeffer	.....	1/2 lbs.
Reis	.....	700 "
Salz	.....	35 "
Zucker	.....	105 "
Tee	.....	7 "
Tomaten-Sauce	.....	14 20 Unzen Flaschen
Worcester-Sauce	.....	7 - do -
Essig	.....	9 26 Unzen Flaschen
Milch	.....	210 Pints
Kartoffeln	.....	132 lbs
Zwiebeln	.....	49 "
Gemüse ( Grünes )	.....	160 "
Frisch-Obst	.....	200 Stück
Gemüse	.....	140 lbs





公  
信  
案

酒保、酒代、酒保ノ利息、酒保ノ利息

酒保ノ利息

酒保ノ利息、酒保ノ利息

酒保ノ利息、酒保ノ利息

酒保ノ利息、酒保ノ利息

酒保ノ利息、酒保ノ利息

酒保ノ利息、酒保ノ利息

酒保ノ利息、酒保ノ利息

(日本標準規格 B5)

外  
務  
省

公  
信  
案

酒保、酒代、酒保ノ利息、酒保ノ利息

酒保ノ利息、酒保ノ利息

酒保ノ利息、酒保ノ利息

酒保ノ利息、酒保ノ利息

酒保ノ利息、酒保ノ利息

酒保ノ利息、酒保ノ利息

酒保ノ利息、酒保ノ利息

酒保ノ利息、酒保ノ利息

(日本標準規格 B5)

外  
務  
省

公  
信  
案

外  
務  
省

(日本標準規格 B5)

好十人等諸君ノ設テテ苦佛ヲ厭ノ風アリ又

ル也何レ形テ苦佛志願ハ一取約カク状良

甚極カクナリ

甚極ノ代表志ノ言ハ依リテ却テ苦佛志願ハ可ナ

死入リナリ

苦佛志願ハ却テ苦佛志願ハ可ナ

又習古友ニ志十一志ニ片ナリ

少尉五磅ニ志五片

公  
信  
案

外  
務  
省

(日本標準規格 B5)

少尉五磅ニ志五片

少尉八磅十七志一片

將校ニ計ル人備給ヤル如キハ、先多ク志ヲ指除キ

紙完ヤリナリ

志願シテリリテ志願シテリリテ志願シテリリテ

將校ハ此以外ノ取扱人員ノ切符ヲ給

取扱人員ノ取扱人員ノ切符ヲ給

金ハ兵及苦佛志願ノ為ニ利用スル



公  
信  
案

外  
務  
省

(日本標準規格 B5)

兵及号佛志願之ヲ希望トせんマ  
 承長ハ海号ノ号佛拒絶ノ理由之ヲ詳  
 述シ居ル。

兵士等何号志願ヲ拒ヤサレハ付却テ  
 言明係属之令ハ与極端ト見テリ。  
 号佛志願ハ其後亦与之令アリ。

其後亦号佛ヲ交テリ。

海号ノ号佛ハ、科学ニ他専門

公  
信  
案

外  
務  
省

(日本標準規格 B5)

海号ノ号佛ハ其後亦与之令アリ。

其後亦号佛ヲ交テリ。

海号ノ号佛ハ、科学ニ他専門

兵士等何号志願ヲ拒ヤサレハ付却テ  
 言明係属之令ハ与極端ト見テリ。  
 号佛志願ハ其後亦与之令アリ。

其後亦号佛ヲ交テリ。

海号ノ号佛ハ、科学ニ他専門

兵及号佛志願之ヲ希望トせんマ  
 承長ハ海号ノ号佛拒絶ノ理由之ヲ詳  
 述シ居ル。

公  
信  
案

外  
務  
省

(日本標準規格 B5)

ハレ( )と申さん中件ハ事ハ一日十日紙物、  
 長ナリ。一日二回紙物ハ事。  
 此評、他系可良、将校、規律及士氣倍秀、  
 其他多限ニ概シ可良ナリ。将校ハ各  
 種ノ内航後、指シツル。各代表志世  
 一收改及不<sup>カク</sup>通<sup>カク</sup>、満<sup>カク</sup>是<sup>カク</sup>「善<sup>カク</sup>」表  
 也。

公  
信  
案

外  
務  
省

(日本標準規格 B5)

書ヲ持来ト云々。  
 若働志願、諸君ノ教習校アム他  
 ノ理<sup>カク</sup>、之<sup>カク</sup>、概<sup>カク</sup>ル<sup>カク</sup>、但<sup>カク</sup>、将<sup>カク</sup>、校<sup>カク</sup>、ハ、各  
 日<sup>カク</sup>、越<sup>カク</sup>、心<sup>カク</sup>、勉<sup>カク</sup>、強<sup>カク</sup>、シ<sup>カク</sup>、ツ<sup>カク</sup>、リ<sup>カク</sup>、。将<sup>カク</sup>、校<sup>カク</sup>、及<sup>カク</sup>、兵<sup>カク</sup>、  
 ハ、日<sup>カク</sup>、刊<sup>カク</sup>、新<sup>カク</sup>、書<sup>カク</sup>、ニ<sup>カク</sup>、種<sup>カク</sup>、々<sup>カク</sup>、他<sup>カク</sup>、同<sup>カク</sup>、刊<sup>カク</sup>、誌<sup>カク</sup>、ヲ<sup>カク</sup>、閱<sup>カク</sup>、読<sup>カク</sup>、  
 シ<sup>カク</sup>、ワ<sup>カク</sup>、リ<sup>カク</sup>、。又<sup>カク</sup>、若<sup>カク</sup>、働<sup>カク</sup>、志<sup>カク</sup>、願<sup>カク</sup>、ハ、関<sup>カク</sup>、心<sup>カク</sup>、ヲ<sup>カク</sup>、示<sup>カク</sup>、ス。  
 規律、規律違反ノ事、罰<sup>カク</sup>、シ<sup>カク</sup>、ツ<sup>カク</sup>、ル<sup>カク</sup>、事<sup>カク</sup>、ハ、  
 表<sup>カク</sup>、干<sup>カク</sup>、ス。修<sup>カク</sup>、業<sup>カク</sup>、ハ、本<sup>カク</sup>、年<sup>カク</sup>、(一日五日)  
 也。